

## ふれあいボランティアパスポート事業におけるふれあいボランティア活動の継続性の意義

さわやか青少年センターは、子どもの健全育成のためには子ども自らが『人間力』（自ら生きていこうとする「自助の力」とみんなで助け合って生きていこうとする「共助の力」）を育むことが大切であると考えています。

そこで、当センターではふれあいボランティア活動（ボランティア活動において、人と人とのふれあいを重視しながら取り組むボランティア活動のこと。以下、ボランティア活動という）に子どもたちに取り組んでもらうことが最善であると考え、小中高等学校にボランティア活動の取り組み実施を働きかけています。その際には、児童、生徒が自ら喜んでボランティア活動に取り組めるように、ボランティア活動の「きっかけ」と「継続」に効果を発揮する“ふれあいボランティアパスポート”（公益財団法人さわやか福祉財団が平成 12 年度開発）をツールとして活用しています。（ふれあいボランティアパスポートの詳細は、別紙添付）

平成 24 年度は、全国の小中高等学校 96 校でボランティア活動にこのふれあいボランティアパスポート（以下ふれあいパスポートという）を活用しており、参加児童、生徒数は 28,000 人を超えました。

当センターでは、在学中の児童、生徒の『人間力』がどのように育まれているかについては、ふれあいパスポートの感想欄や感想文の募集によって検証を行っていますが、最も大切なことは、児童、生徒が卒業して社会人になっても『人間力』を発揮してくれているかということです。そのことについての検証は、ボランティア活動に取り組んだ児童、生徒が成人を迎えていない段階では検証ができませんでした。しかし、今回、さわやか福祉財団が、児童、生徒のふれあいパスポートを使ったボランティア活動の普及に取り組み始めた平成 12 年度から当センターが取り組んでいる現在の平成 24 年度までの 12 年の間に社会人になった人たちが出てきました。

そこで、平成 15 年度から今年度まで教育委員会として継続して全小中学校にふれあいパスポートを使ってボランティア活動に取り組んでいる佐賀県神崎市と平成 16 年度から同様に取り組んでいる福島県棚倉町の教育委員会にご協力をいただき、神崎市では当時小学校 5 年生、棚倉町では当時小学校 6 年生だった児童が新成人として成人式を迎えた平成 25 年 1 月 13 日（日）、成人式に参加した新成人に対して社会人としてその活躍が期待されるボランティア活動を『人間力』の評価指標として、小学生の時から現在までのボランティア活動の実施についてのアンケート調査を行いました。成人式の間にアンケート調査を行うという大変回収の難しい環境の中で 52 人の新成人から回答をもらうことができました。

その結果は、以下の通りです。（但し、今回はあくまでも 52 人の回答から見たまとめです。今後回答数を増やし、詳細な分析を続けたいと考えています。）

このデータの集計に当たっては、統計処理には埼玉純真短期大学特任講師齋藤史夫先生のご協力をいただき、また、早稲田大学文学学術院教授増山均先生に監修をお願いいたしました。

## ◆ボランティア活動に全校で取り組んだ小、中学校を卒業した新成人の約 6 割 (59.6%) がボランティア活動に取り組んでいる。

総務省が 5 年ごとに調査している社会生活基本調査の平成 23 年度調査では、20 歳～24 歳の社会人がボランティア活動に取り組んでいる割合は 21.2%です。社会生活基本調査の割合と比較すると約 3 倍という高い割合です。(グラフ 8) (グラフ 9)

## ◆小中高等学校と段階的、継続的にボランティア活動をした児童、生徒は、新成人になってもボランティア活動をする割合が約 7 割から 8 割と非常に高い。

このことは、以下のことを基にしています。

- 小学校時代にボランティア活動に取り組んだ児童は、新成人の現在も 70.0%がボランティア活動に取り組んでいます。(グラフ 10)
- 中学校時代にボランティア活動に取り組んだ生徒は、新成人の現在も 68.3%がボランティア活動に取り組んでいます。(グラフ 10)
- 高等学校時代にボランティア活動に取り組んだ生徒は、新成人の現在も 76.5%がボランティア活動に取り組んでいます。(グラフ 10) (※)
- 小中高等学校と継続してボランティア活動に取り組んだ児童、生徒は、新成人の現在も 79.3%がボランティア活動に取り組んでいます。(グラフ 10)
- アンケート調査実施対象者の各年代毎のボランティア活動の取り組みを社会生活基本調査と比較すると、年代によって約 2 倍～4 倍の差がありますが、いずれも高い割合となっています(下枠内)。

小学校時代 (平成 15～16 年)	11 歳・12 歳	76.9%
中学校時代 (平成 17～19 年)	13 歳～15 歳	78.9%
高等学校時代 (平成 20～22 年)	16 歳～18 歳	65.4%
(比較)		
社会生活基本調査 (平成 13 年)	10 歳～14 歳	36.3%
社会生活基本調査 (平成 18 年)	15 歳～19 歳	18.7%

(グラフ 11)

(※) なお、市町の教育委員会管轄の小中学校を卒業し、高等学校に進学した生徒たちは入学した高等学校によってボランティア活動への取り組み姿勢が異なるにもかかわらず、76.5%という高い割合であるのは、小学校、中学校でボランティア活動に取り組んだ児童、生徒が高等学校でボランティア活動に取り組んだ割合が 75.0%、75.6% (グラフ 6,7) と高いことから、小学校、中学校と継続してボランティア活動に取り組んでいることが高等学校でのボランティア活動の割合を高くしているものと思います。

## ◆ふれあいボランティアパスポートは、児童、生徒にとって有効なツールであると考えられる

当センターが配布しているボランティアパスポートについて、新成人に小学校当時、ボランティア活動に取り組むに当たって有効であったか尋ねたところ、73.1%が有効であったと回答し、中学校当時においても 65.4% (グラフ 2,4) が有効であったと回答しています。当センターでは、ふれあいボランティアパスポートがボランティア活動に取り組むに当たって有効なツールであるということを今後も引き続き検証していきます。

以上のような検証結果から、子どもの時から継続的にボランティア活動に取り組むことは大変有意義なのではないかと考えているところです。各学校におかれましては、積極的にボランティア活動に取り組んでいただきたいと思います。

その際には、児童、生徒がより主体的、継続的に取り組むよう、ボランティアの意義の理解を進めたり、当センターのふれあいボランティアパスポートなどのような「きっかけ」の提供や「継続」のための工夫をしたりするなどをご検討いただければ幸いです。

なお、今後も小中高等学校時代にボランティアに取り組んだ成人への調査を行い、検証を継続して行っていきたく考えています。

# 新成人ボランティア活動アンケート調査の概要

(ふれあいボランティアパスポートを使ったボランティア活動の継続性についての検証)

**【趣旨】** ふれあいボランティアパスポートは、概ね小中高等学校の児童、生徒を対象にボランティア活動の「きっかけ」と「継続」に有効なツールとして開発されたものです。その詳細は、別紙の通りです。

(さわやか青少年センターのホームページにも掲載。 <http://www.ssc-npo.or.jp>)

平成 12 年度からふれあいボランティアパスポート事業に取り組み始めて、平成 25 年 3 月まで丸 13 年が経過しました。その間、多くの小中高校の児童生徒にこのツールを使ってボランティア活動に参加していただきました。

しかし、小中高校を卒業した後、彼らがボランティア活動に取り組んでいるかどうかについて検証できずまでに至っていませんでした。

そこで、今回、平成 15 年度、16 年度からふれあいボランティアパスポートを使ってボランティア活動に取り組んでいる市と町の 2 つの教育委員会の協力を得て、その市と町で今年の 1 月 13 日（日）に成人式に参加する新成人（平成 24 年度内に 20 歳となる人たち）を対象にして、小中学校時代から新成人になるまでの間のボランティア活動への取り組み状況についてアンケート調査を行い、小中学校卒業後新成人になる時までのボランティア活動の継続性について検証を試みました。

## 【アンケート対象団体・対象者と調査方法】

(対象団体)

今回、協力をいただいたふれあいボランティアパスポート事業参加の教育委員会は以下の 2 教育委員会

○佐賀県神埼市教育委員会（当時、千代田町教育委員会所管下）

平成 15 年度から小学校 3 校、中学校 1 校の全校が参加

○福島県棚倉町教育委員会

平成 16 年度から小学校 5 校、翌年度から中学校 1 校を加えた全校が参加

(対象者)

・千代田町では平成 15 年度小学校 5 年生で中学 3 年生までの 5 年間

・棚倉町では平成 16 年度小学校 6 年生から中学校 3 年生までの 4 年間

ふれあいボランティアパスポートを使用してボランティア活動に取り組んだ小中学校の児童、生徒であった新成人。

(調査方法)

○平成 25 年 1 月 13 日（日）両市町で行われた成人式に出席した新成人へのアンケート調査

## 【調査の概要】

○佐賀県神埼市教育委員会（当時千代田町教育委員会所管下）

成人式参加者 127 人中 **32 人** から回答を得ました。

○福島県棚倉町教育委員会

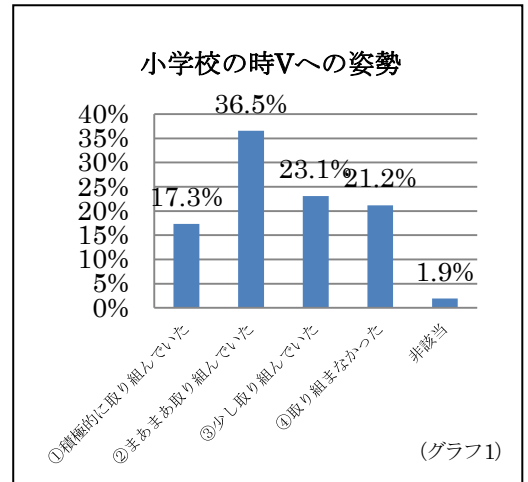
成人式参加者 162 人中 **20 人** から回答を得ました。

合計 **52 人** から回答を得ました。

【小学校でのボランティア活動】

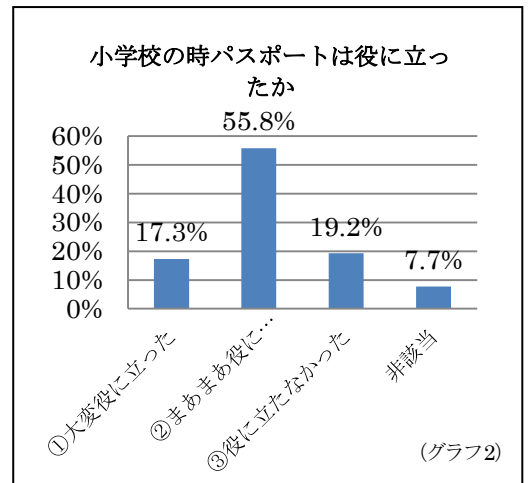
佐賀県神埼市でふれあいボランティアパスポートを使ったボランティア活動に取り組み始めたのは、平成15年度からでした（今回調査した新成人は当時小学5年生）。棚倉町では平成16年度からでした（当時小学6年生）。

両市町で、小学校の時にボランティア活動に取り組んでいたか尋ねたところ、何らかの形で**76.9%**が取り組んでいたという回答でした。（グラフ1）



【ふれあいボランティアパスポートは役に立ったか】

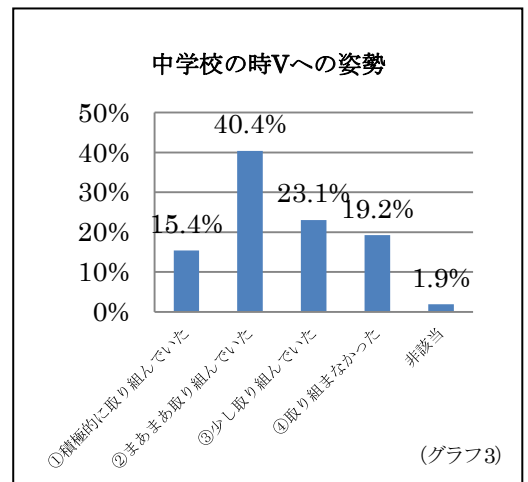
ボランティア活動に取り組むきっかけとして、配布しているふれあいボランティアパスポートについて、役に立ったと思うか尋ねたところ、**73.1%**が役に立ったという回答でした。（グラフ2）



【中学校でのボランティア活動】

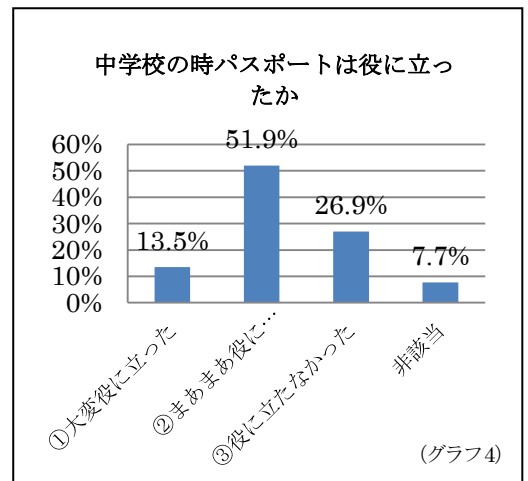
神埼市、棚倉町のいずれの中学校も、ふれあいボランティア活動を生徒が入学して卒業するまでの間、3年間継続して取り組んでいます。

そこで、中学校の時にボランティア活動に取り組んでいたか尋ねたところ何らかの形で**78.9%**が取り組んでいたという回答でした。（グラフ3）



【ふれあいボランティアパスポートは役に立ったか】

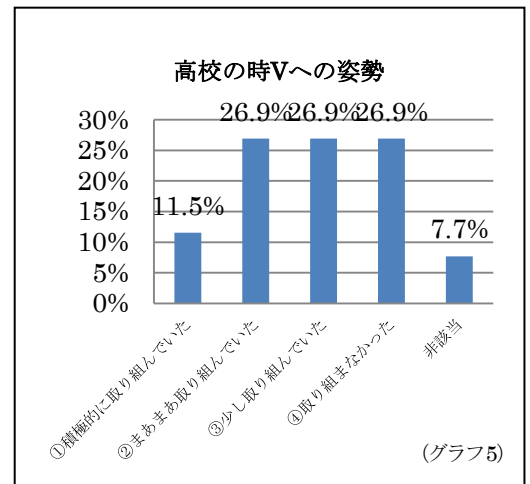
ボランティア活動に取り組むきっかけとして、配布していたふれあいボランティアパスポートについて、役に立ったと思うか聞いたところ、**65.4%**が役に立ったという回答でした。（グラフ4）



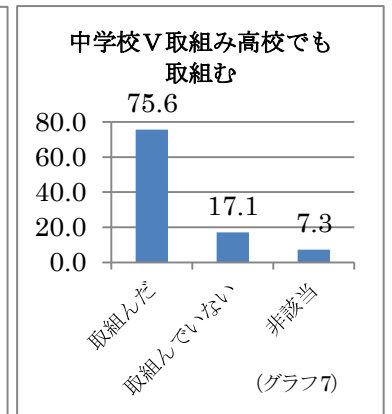
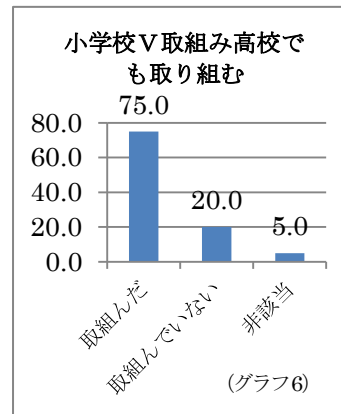
(※グラフにおけるVは、ボランティア活動のこと)

### 【高等学校でのボランティア活動】

小中学校は神崎市、棚倉町の教育委員会の管理下にある学校ですが、高等学校は県立、国立、私立などの区別はあるにしても神崎市、棚倉町と所管が異なるため、ボランティア活動の取り組みについては新成人たちが当時入学した高等学校によって取り組み状況はかなり異なっているのではないかと考えましたが、高等学校になっても **65.4%** (小数点以下2桁の四捨五入による) がボランティア活動に取り組んでいたという回答でした。(グラフ5)



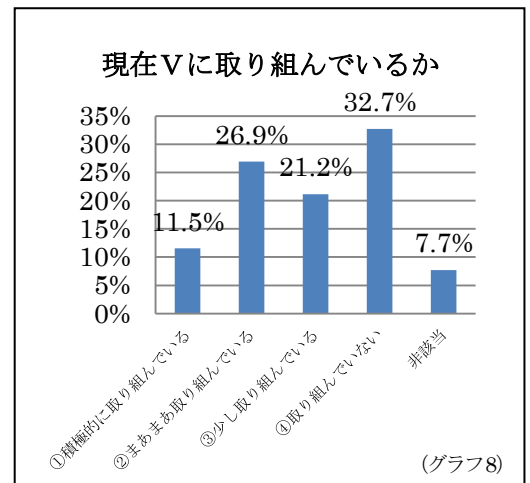
そして、小学校の時にボランティア活動に取り組んでいた児童は、高等学校になっても **75.0% (\*\*)** がボランティア活動に取り組み、中学校の時にボランティア活動に取り組んでいた生徒は、高等学校になっても **75.6% (\*)** がボランティア活動に取り組んでいたという結果がでました。(グラフ6,7)



(\*) 1%有意・(\*\*) 5%有意

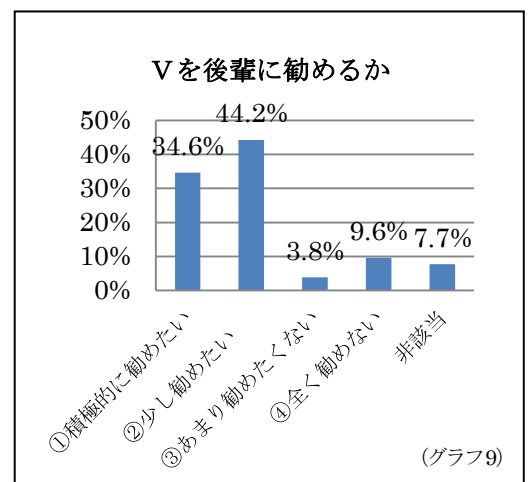
### 【新成人はボランティア活動に取り組んでいるか】

新成人に、現在、ボランティア活動に取り組んでいるか聞いたところ、何らかの形で **59.6%** が取り組んでいるという回答でした。(グラフ8)



### 【新成人は後輩にボランティア活動を勧めるか】

新成人に、後輩の児童、生徒に対してボランティア活動への取り組みを勧めるか聞いたところ、**78.8%** が勧めたいという回答でした。(グラフ9)



### 【各年代と新成人のボランティア活動の取り組みの関係】

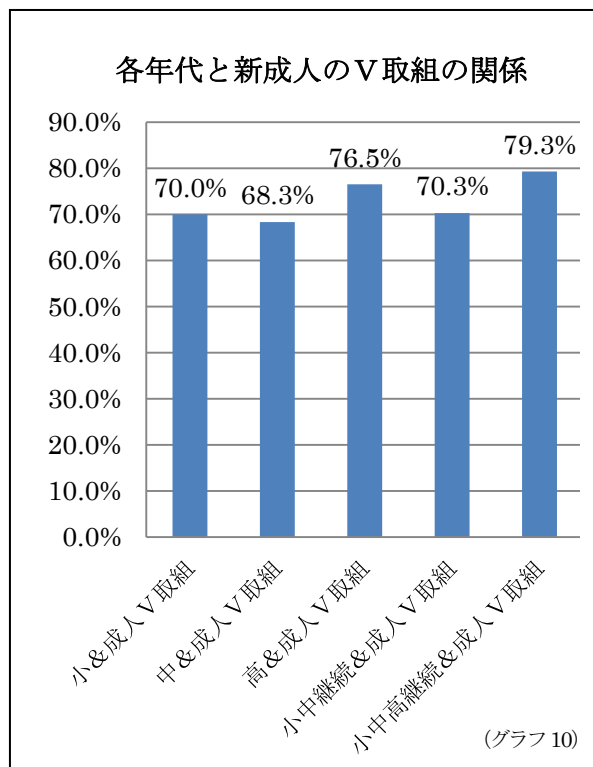
小学校時代にボランティア活動に取り組んでいたと回答した新成人は、**70.0%**が現在もボランティア活動に取り組んでいると回答しています (\*\*)

同様に中学校時代にボランティア活動に取り組んでいたと回答した新成人は、**68.3%**が現在もボランティア活動に取り組んでいると回答しています (\*\*)

高等学校時代にボランティア活動に取り組んでいたと回答した新成人は、**76.5% (\*)**が現在も取り組んでいると回答しています。

小学校時代に取り組んでいた人は、中学校になっても**92.5%**が継続してボランティア活動に取り組んでいました。そのうち **70.3%**が成人してもボランティア活動に取り組んでいます。

同様に、小中高等学校で継続してボランティア活動に取り組んでいた児童、生徒は新成人になっても **79.3% (\*)**が取り組んでいるという結果がでました。(グラフ 10)



(\*) 1%有意・(\*\*) 5%有意

### 【ボランティア活動の神崎市・棚倉町と

#### 社会生活基本調査比較】

神崎市、棚倉町の新成人の子ども時代に近い時期の社会生活基本調査(総務省統計局)から、同等の年代のボランティア活動への参加についての比較を試みました。

その結果、

神崎市、棚倉町では平成15、16年度ボランティア活動に取り組んだ小学生(5、6年生=11、12歳)は**76.9%**でしたが、平成13年社会生活基本調査では、10歳~14歳での取り組みは**36.3%**でした。

同様に、両市町での平成17~19年度の中学生(1~3年生=13歳~15歳)は、**78.9%**、平成20~22年度の高校生(16歳~18歳)は**65.4%**でしたが、平成18年社会生活基本調査(15歳~19歳)では**18.7%**でした。

そして、現在の新成人(20歳)は、**59.6%**でしたが、平成23年社会生活基本調査(20歳~24歳)では**21.2%**という結果がでました。(グラフ 11)

